

## リンゴ斑点落葉病の拡大を抑えましょう

リンゴ斑点落葉病は、早期落葉や果実被害を招き、減収要因となります。

7月上旬の定点ほ場（宇都宮市、矢板市）調査結果では、斑点落葉病は近年増加傾向にあります（表1）。本病害は、高温多雨（最低気温20℃以上で3日以上連続降雨）で多発しますが、気象庁発表の1か月予報では、気温は高く降水量は多いとなっております。

ほ場内をよく観察し適切な防除に努めましょう。

表1 7月上旬におけるリンゴ斑点落葉病の発生推移

	平年値 〔2012～2021年〕 平均値	令和2（2020）年	令和3（2021）年	令和4（2022）年
発生ほ場率（%）	16.9	28.6	66.7	85.7
発生葉率（%）	0.1	0.1	0.8	0.3

### 1 発生と被害

リンゴ斑点落葉病の病原は糸状菌の一種 *Alternaria mali* であり、被害落葉、皮目、鱗片などで菌糸の形で越冬し、春に分生子（菌糸の一部が変化した分生子柄上に形成される非運動性の孢子）を形成し一次伝染源となる。

葉の病斑は、はじめ2～3mmの褐色または暗褐色の円形病斑（図1）で、病徴が進展すると5～6mmの拡大病斑となり（図2）、早期落葉が激発することもある。また、果実にもカサブタ状の斑点が発生する。



図1 円形病斑



図2 不整形病斑

### 2 防除対策

- （1）一次伝染源となる落葉は園外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処理する。
- （2）風通しが良く薬剤が樹全体にかかりやすい樹形に改善する。
- （3）予防効果の高い剤を中心に、計画的に薬剤散布を行う。
- （4）薬剤耐性菌発生防止のため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する（表2）。

表2 リンゴ斑点落葉病に登録のある主な薬剤（令和4（2022）年7月11日現在）

農薬の名称	希釈 倍数	使用 方法	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分	RAC コード
スコア顆粒水和剤	3000倍	散布	収穫14日前まで	3回以内	ジフェノコナ ゾール	F:3*
フルーツセイバー	1500～ 2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	ペンチオピラド	F:7
ナリアWDG	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	ピラクロストロビン ボスカリド	F:11 F:7
ファンタジスタ顆粒 水和剤	3000～ 4000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	ピリベンカルブ	F:11
ポリオキシシンAL水和剤	1000倍	散布	収穫3日前まで	3回以内	ポリオキシシン	F:19
キノンドーフロアブル	800～1000倍	散布	収穫14日前まで	4回以内	有機銅	F:M01
ICボルドー412	20～50倍	散布	—	—	塩基性硫酸銅	F:M01
オーソサイド水和剤80	600～800倍	散布	収穫前日まで	6回以内	キャプタン	F:M04
ベルコートフロアブル	1000～ 1500倍	散布	収穫前日まで	6回以内 (但し、開 花期以降散 布は3回以 内)	イミノクタジ ンアルベシル 酸塩	F:M07

\*F:3は薬剤耐性菌発生防止のため、年2回以内の使用とする。

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。  
病虫害情報発表のお知らせは「[栃木県農政部\(@tochigi\\_nousei\)](mailto:tochigi_nousei)」、農業環境指導センタ  
ーホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。



6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。  
いつものチェック！ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！

